

Moussié, Edmond et Dufet, Michel (ed.)

Feuillets d'art. 6 v.

Paris, 1919-1920. (文献番号8-59)

ムシエ、デュフェ共編

芸術の紙葉集 全6分冊

1919年5月から翌年7月まで6回にわたって発行された、文学、演劇、美術、音楽、モードといった広い意味での芸術全般に関する雑誌である。書名の *feuillets* (葉の意) 通り、二つ折、または四つ折の紙を襲ねて、章毎に章題を入れた二つ折の紙で巻いただけの綴じない、帙入りの本である。各号とも85~88頁で、奥付によると予約購読制とある。モードのプレート入りは版の号によって多少の差異があるものの、1100~1500部発行された。

分野毎に分かれた各章ではいずれも主にそれぞれの時事的テーマを取り上げている。例えば、美術の章では、第1号ではプティ・パレで最近開かれた展覧会に因んでゴヤを、第2号ではおなじプティ・パレの展覧会に因んでシャッセリオウを、また第6号では死後400年を記念してラファエロを、といった具合であり、当時新進であったキュービズムのピカソも取り上げられている。文学の章では、アナトール・フランス、アンリ・ド・レニエ、ポール・クローデルなど当時の前衛的作家の作品が紹介されており、同時代の他の雑誌に比べると決して贅沢な造本ではないものの、知的で進歩的な教養のある読者層を対象としていたことが想像される。

モードの章ではカット入りの記事の他に、2、3葉のプレートが添えられ、いずれもジャボン紙、ないしはオランダ紙に刷られ、多くはポショワール、中には木版のものもある。バルビエ、マルタン、ペニト、ドリアンなど、当時一流のイラストレーターのほかにはタブロー画家ヴァン・ドンゲンの作品も見られる。ただしバルビエやマルタンの作品に、例えばガゼット・デュ・ボン・トン等にみられる華やかさも冴えもうかがえないのは第一次大戦直後の造本の質素さのせいだろう。本書では、ドリアンのような、20年当時まだ新人の作品の方が若々しい魅力を放っている。また第3号から加わる広告の章には、画家の名は明らかではないものの、本体のプレートを凌ぐイラストも含まれており、広告美術の時代の到来を思わせる。

図は第6巻のモード画、ドリアン筆、1920年。

(能澤)

